

講演 「農業を通じた人と地域の絆づくり —農民カフェにみる支援ネットワーク」

農民カフェ オーナー・代表 和気 優 氏

和気 優

<http://www.you-waki.com>

バイクに跨りギターを背負って全国の少年院や学校で弾き叫び、自ら無農薬の米を作り、その米をメニューとして提供する店舗を創作し、あらゆる人間に「生きる！」を叫び続ける。今やその活動はフランスやモンゴルなど世界へと繋がっている。



俺はどこから来た！？

未だに、ガキの頃を思い返すと悔しくて涙が出る
便所にひとりで行くのが恐くてネシヨベン垂れた
親戚は冷たかった

毎日夕方、バスの停留所でずっと待った
誰でもいい、誰かが俺を迎えに来てくれる事を
親父よ、お袋よ、なぜだ？

どこからか流れてくるステレオの音
泣きながらその音を聴いてると、優しい気持ちになれた
いつからか、俺は大人と言う、つまらん時代を迎えた
そして10年前、中学時代の仲間が犯した殺人事件
俺は手探りで旅に出る

歌いながら、同じ様な目をした少年の所へ
その切っ掛けが与えてくれた答えを見つけるまで
走り続けるしかない

和気優

<和気優についての窓口>

090-3592-5031 (和気直通)

03-5734-1190 (農民カフェ 学芸大学店 / FAX 兼用)

E-mail w@livemedia.co.jp

和気優サイト <http://www.you-waki.com/>

和気優プロデュース店舗サイト <http://hyakushow.com/>

〒152-0004 東京都目黒区鷹番 2-21-4 農民カフェ / 学芸大学店内

～ある施設の職員の言葉～

和気の歌に少年院の少年たちが笑い、泣く。

同じ場所で聴いている職員たちも笑い、泣く。

立ち会う母親たちは号泣する。

決してきれいじゃない。決して上品じゃない。

でも何だろう、終わってみれば、寅さんの映画のような

清々しい気持ちが心を支配する。

そこには紛れもなく、真実の歌があるから

諦めない、言葉があるから

笑えるし、泣けるんだ。

和気を経験すると、自分が信じられるようになる。

【プロフィール】

15 年前、中学校時代の仲間が犯した殺人事件をきっかけに、毎年夏になると「バイクに跨がり」「ギターを背負って」全国数十ヶ所の少年院・児童自立支援施設（旧教護院）や児童養護施設をコンサート慰問ツアーをしている（弾き叫びと言う）

また、バイクツアーでは昼は更生施設、夜は旅続行のための日銭稼ぎライブ「バーや居酒屋、酒蔵に寺、銭湯にお茶の間まで」求められればどこへでも行って弾き叫ぶ「昼夜のダブルヘッダー方式」をとっている。

現在、和氣自身は更生施設に留まらず、学校ライブの実演に奮闘している（現在までに被災地の福島相馬市中村第二中学校など 5 校ほど実現）

和氣優プロデュース店「農民カフェ」

◎ 農民カフェ 下北沢店 03-6416-8176

◎ 農民カフェ 学芸大学店 03-5734-1190

東京は世田谷区下北沢などに一軒家の古民家レストラン「農民カフェ」を 2 店舗経営。千葉県に無農薬の水田を持ち、全国の有機農園と手を結び、食と農業をプロデュースしながら、食べる事の本質を説いている。

農民カフェは毎月 3,000 人以上が訪れる人気店。

尚、現在北海道に夏季限定農民カフェ開店、大分は国東半島に建設予定である。

音楽活動

“JACK KNIFE”、と言うバンドでメジャーデビューし、3,000 人を動員するまで成長。作家としても活躍ジャニーズの “TOKIO”、にも楽曲を提供、2 枚のシングルヒットを飛ばしている（フラれて元気／この指とまれ！累計売数 70 万枚以上）

テレビ

◎2008 年 11 月 8 日(土)テレビ東京系で少年院ツアーを記録したドキュメント “和氣優の弾き叫びロード 16,000km”、放送。

◎ 2011 年 9 月 BS ジャパン「ふるさと発元気プロジェクト」にて「農民ロッカー和氣優 被災地弾き叫びバイクツアー」特集放送される。

◎2013 年 3 月 BS ジャパンにて「農民ロッカー／ガレキに花を咲かせましょう」2 時間番組としてドキュメント放送。

◎ 世界を繋ぐ農民ロッカー「Rock' n roll Farmer」としてモンゴルをバイクで疾走。来年春モンゴルと日本で特番予定。

農民プロジェクト

現在、少年院の卒院生雇用など「非行少年就労／就農支援活動」と共に、農民カフェを介しての農家輩出に全力を注いでいる。

実例として

◎ 岩手の陸前高田で津波被害に遭った農家「村田光貴」さんが農業を続ける為に全面支援／大分への移住移農と米農家としての自立をサポート、現在本人は見事認定農家として自立している。

◎ 少年院を2度経験している青年を就労支援と農業研修でサポート、今は実家の熊本八代へもどり農家として自立している。

など…

現在も農民プロジェクトを世界規模で実現中！（フランス／モンゴルなど）

栃木県出身 49 歳。

フェアトレード活動

和気が主催する完全市民主導のマーケット「下北沢あおぞらマルシェ」が話題である。

有機／自然素材のフェアトレードを旗印にしたマーケットを年に数回催している。

福島で風評被害にあっている有機農家たちも多数出展、手作りのオーガニック商品やレストランも出店、

和気 優とは…

和気は10歳まで親の顔を殆ど知らずに育った。
父親は暴力団幹部で懲役をくり返し、たえず刑務所暮らし。
その間和気は、父親の実家で祖母と義理の祖父と共に暮らす。
しかしそこでは、義理の祖父から虐待とも言える仕打ちを受ける。
10歳になり両親と同居するが、その頃から父親は覚醒剤に手を染めるようになる。
覚醒剤で狂った父親は、家で暴力を振るうようになり、母親は自殺未遂をくり返す等、状況は荒みきっていた。
兄弟もいない和気にとって頼る術は、“音楽”しかなかった。
“音楽”だけが、孤独で疎外感に支配された生活の中で、時に父となり母となり、時に兄弟や友人として、和気の心の拠り所となった。
中学一年生の夏、父親は覚醒剤密輸の主犯格として逮捕。
報道に大きく取沙汰され、新聞の一面をかざった。
母親は家を飛び出し、また戻ってきたものの、一人取り残された思いの消えない和気も非行へと傾いた。
窃盗、傷害や恐喝をくり返し、何度も補導、逮捕されたが、当時の中学校校長が熱意のある保護者であり、そのフォローにより保護施設行きはまぬがれた。
そして転機が訪れる。

中学三年の夏、初めて父親の面会を秋田刑務所で経験した和気は、ガラス越しの父親の姿に現実を見たのだった。
このままじゃマズイ。
このまま自分も父親のように落ちていったら、家族全員社会の闇へと葬られてしまう。
和気は決意した。
初めて、自分の足で、一步踏み出したのだ。
それはまったく行くつもりの無かった高校へ進学しようと決意だった。

そして絶望と希望の狭間で、和気を救い続けた“音楽”
聴くだけではなく、自ら歌い始めたのも、自然な成りゆきである。
二十歳で上京、バンド“JACK KNIFE”でメジャーデビュー。
作家としてもヒットを飛ばし、東京は下北沢でダイニングバーをプロデュースするなど全ては順風満帆であった。
そんなある時、またも転機が訪れる。

中学時代の親友が起こした殺人事件。
ニュースでその事件を知った和気は、何か強い使命感を抱くようになった。
歌い続けてきた自分が、今、すべきこと。
少年院を訪問しようと思ったのはその時からである。
事件を起こした友人と和気は何も変わらない。
もしかしたら、自分がそうになっていたかもしれない。
和気には“音楽”があっただけである。
しかし、その“音楽”は圧倒的な引力で導いてくれた。

そして今も、変わらず“音楽”に救われている。
もし“音楽”がなかったら・・・それは想像に堪えない。
そんな和気の歌を少年たちが体験して、生きる何かのきっかけになれば・・・。

そんな小さな希望から始まった、少年院訪問コンサートも今年で15年になる。
今ではバイクに跨がり、ギターを背負って慰問する姿が“タイガーマスク”のように映る。
2008年はソロデビューツアーも兼ねて、全都道府県120箇所以上をバイクに跨がり、走り、
弾き叫び切った。

現在は、歌うだけでなく実際に少年院卒院生を自らの店で雇用し、農園作業等を通じて自立指導を行う傍ら、農業志望の若手を農家へ輩出する為の活動を促進している。

更に今、和気は学校で歌う事を強く望んでいる。
自分を信じる気持ちと、自分をあきらめない事を、一般の中学校や高校で歌を通じてメッセージしたい！と望んでいる。
なぜなら“生きる”と言うことは、この世のすべてに共通しているテーマだからである（中学校ライブは既に5校ほど実現している）

バイオグラフィー

- 1964年：栃木県は氏家（現さくら市）に生まれる
1966年：暴力団員の父の都合上、同居出来ず親類関係をたらいまわしに合う
1974年：宇都宮に移住、両親と初めて同居する
1977年：父が麻薬の密売の主犯格で逮捕、実刑は10年
1978年：窃盗、傷害、恐喝等で補導をくり返す
1979年：初めて父と入所する刑務所で面会、心の転機を迎え、高校進学を決意
1980年：栃木県立宇都宮工業高等学校に入学
1983年：東京への上京を決意、就職せずアルバイトに励む
- 1984年：東京へ上京、原宿歩行者天国“ホコ天”で歌い始める
1987年：初の自主制作カセット“DOWN TOWN BOY”発売
1989年：JACK KNIFE 結成、夜の渋谷ストリートに進出
1991年：初の渡米、ニューヨーク CBGB 出演、タイムズスクエア等でライブ
1991年：ニューヨークレコーディング（ビルラズウェルのスタジオにて）
1993年：渋谷公会堂ワンマン2,000人を動員
アンコールを渋谷のストリートにて決行
1993年：メジャーデビュー
1995年：日比谷野外音楽堂ワンマン3,000人を動員
アンコールを渋谷のストリートにて決行
1995年：ニューヨークでライブサーキット、アルバム米発売
- 1996年：三軒茶屋にダイニングバー“BROOKLYN”オープン
1997年：TOKIOの“フられて元気”を作詩、50万枚を売上げる
1997年：JACK KNIFE 活動停止
1998年：TOKIOの“この指とまれ！”作詩作曲、売上20万枚
1999年：ソロ活動開始、プロレスのリング（バトラーツ）で歌い始める
- 1999年：（友達の殺人事件がきっかけ）新潟少年学院で初めての少年院ライブ
2000年：下北沢にキッチンカフェ“Lotus cafe”オープン
2001年：下北沢にダイニングバー“TIBET TIBET”オープン
2003年：千葉県流山に水田を借り自作米“空米（くうべえ）”栽培を始める
2004年：バイクでの全国少年院・児童自立支援施設ツアー開始（30カ所）
2005年：バイクでの全国少年院・児童自立支援施設ツアー（40カ所）
2006年：バイクでの全国少年院・児童自立支援施設ツアー（20カ所）
2007年：イタリア、スペイン、ドイツ、ヨーロッパツアー敢行
2007年：バイクでの全国少年院・児童自立支援施設ツアー（50カ所）
2008年：アルバム“ある晴れた空の下”でソロメジャーデビュー
2008年：バイクでの少年院ツアー全都道府県120箇所以上
2008年：11月テレビ東京系列で少年院ツアードキュメントテレビ放送
2008年：少年院を卒院した少年を対象に、雇用の基礎作りを始める
2009年：独白本“少年院ロックシンガー”発売

2009年：農民プロジェクト（生き方プロジェクト）開始
2009年：農民プロジェクトにおける第一弾「農民カフェ」下北沢に開店
2010年：農民プロジェクト第二弾における益子農園／野外音楽堂プラン着手
2010年：バイクでの全国少年院・児童自立支援施設ツアー（50カ所）
2010年：中学校ライブ始まる（和歌山市日進中学校／沖縄県国頭中学校等）
2011年：中学校講演「生きる」始まる（神奈川県南戸塚中学校）
2011年：農民カフェにおいて現在3名の少年院出院者が就労中。
2011年：被災農家支援プロジェクト開始（まず大分県湯布院に拠点をかまえる）
2011年：夏、「被災地弾き叫び」及び被災「中学校ライブ」バイクツアー決行。
2011年：陸前高田の被災農家がプロジェクトにおいて大分に移農決定。
2011年：フランス、ブルターニュへ渡仏、監獄（レンヌ刑務所）弾き叫びや農業交流を実施。
2011年：和気優が牽引する任意団体「Agri-Connections」発足。
2012年：Agri-Connections主催のフェアトレードマーケット下北沢あおぞらマルシェ開催。
2012年：陸前高田の被災農家「村田光貴」さんが大分に移住、見事に米3.6トンの収穫。
2012年：再び渡仏、刑務所弾き叫びとフランス農民講演会実施。
2012年：北海道農民カフェが沼田町に夏季限定で開店
2012年：九州大分県国東市に農民プロジェクトの拠点物件（築150年の古民家）を借りる。
2012年：農民カフェの2号店が目黒区学芸大学に開民！
2013年：福岡県久留米市の諏訪中学校で学校弾き叫び
2013年：モンゴルへの農民ロッカーバイクツアー決行！
2013年：大阪旭東中学校講演弾き叫び

和気優コンサート更生施設等公演記録

※少年院／少年刑務所

盛岡少年刑務所（岩手県）× 2回
新潟少年学院（新潟県）
青森少年院（青森県）
赤城少年院（群馬県）× 2回
水府学院（茨城県）
喜連川少年院（栃木県）× 2回
八街少年院（千葉県）× 3回
小田原少年院（神奈川県）
瀬戸少年院（愛知県）× 3回
加古川学園（兵庫県）× 2回
播磨学園（兵庫県）
岡山少年院（岡山県）
美保学園（鳥取県）
四国少年院（香川県）
松山学園（愛媛県）× 2回
福岡少年院（福岡県）
佐世保学園（長崎）
人吉農芸学院（熊本県）
中津少年学院（大分県）
沖縄少年院（沖縄県）
沖縄女子学園（沖縄県）
北海道沼田就業センター（北海道）

以上、計 30 公演

※児童自立支援施設（旧教護院）

自立センターみらい（青森県）
大沼学園（北海道）
向陽学園（北海道）
杜陵学園（岩手県）× 2回
さわらび学園（宮城県）× 2回
朝日学園（山形県）
福島学園（福島県）× 4回
茨城学園（茨城県）× 3回
埼玉学園（埼玉県）

大磯学園（神奈川県）× 3回
甲陽学園（山梨県）× 4回
児童生活指導センター（石川県）
和敬学園（福井県）
三方原学園（静岡県）
愛知学園（愛知県）× 4回
淡海学園（滋賀県）× 3回
修徳学院（大阪府）× 3回
阿部山学園（大阪府）× 3回
明石学園（兵庫県）× 2回
若葉学園（兵庫県）
精華学園（奈良県）
仙溪学園（和歌山県）× 4回
喜多原学園（鳥取県）
わかたけ学園（島根県）× 3回
広島学園（広島県）× 2回
徳島学院（徳島県）× 5回
福岡学園（福岡県）
虹の松原学園（佐賀県）× 2回
開成学園（長崎県）× 3回
清水が丘学園（熊本県）× 4回
牧ノ原学園（鹿児島県）× 2回
みやざき学園（宮崎県）× 3回
二豊学園（大分県）× 4回
若夏学園（沖縄県）× 2回

以上、計 78 公演

※ 児童養護施設

太洋学園（岩手県）
みどり学園（岩手県）
旭川育児院（北海道）
アイリス学園（福島県）

※ 中学校

日進中学校（和歌山県）
国頭中学校（沖縄県）
南戸塚中学校（神奈川県）
中村第二中学校（福島県）
諏訪中学校（福岡県）
旭東中学校（大阪府）

※行政／自治体／その他団体関連主催公演・講演

東京都大田区防犯課主催公演
熊本県少子化対策課主催公演
和歌山県人権啓発センター主催公演
新潟市青少年の家主催公演
千葉県農業促進会主催公演
大阪府富田ふれ愛義塾主催公演
宮城県ローゼンベルグ主催公演
新潟市 BBS 会主催川岸寮公演
和歌山県高野山 BBS 会主催みんなの学校公演
新潟県三条 BBS 会主催公演
栃木県宇都宮市保護司婦人会公演
セイヴザ下北沢主催講演
全国ボランティアフェス講演
南戸塚中学校講演
大分県宇佐農食工房ありく公演
和歌山県 BBS21 SPACE 公演
郡上八幡商工会青年部講演会
フランス／レンヌパブリック団体講演会
フランス／フジエール農民会議公演

※東日本大震災被災地

PEPPERMINT（千葉県）
SHOUT（福島県）
山元町役場避難所（宮城県）
志津川高校避難所（宮城県）
宝来館（岩手県）
もつきり絆（岩手県）
野馬土（福島県）
Ape（岩手県）
紫波オガール（岩手県）
えすぺり（福島県）
登米市南方仮設住宅（宮城県）
樟山珈琲店（福島県）
復興仮設屋台 KAIZAN（岩手県）

その他情報／連絡先

CD

“ある晴れた空の下”

DXCL-116

¥3,045 (TAX IN)

発売元：(株)DAIPRO-X

販売元：ビクターエンタテインメント(株)

著書

“少年院ロックシンガー”

青志社

テレビ

- ★ 2008年：ザ・ドキュメンタリー「和気優の弾き叫びロード」テレビ東京
- ★ 2009年：「和気優の弾き叫びロード完全版」BS ジャパン
- ★ 2011年：「ふるさと発元気プロジェクト／和気優特番」BS ジャパン
- ★ 2013年：「農民ロッカー／ガレキに花を咲かせましょう」BS ジャパン

講演／コンサート依頼

090-3592-5031 (和気直通)

03-5734-1190 (FAX 兼用／農民カフェ 学芸大学店)

E-mail w@livemedia.co.jp

和気優サイト <http://www.you-waki.com/>

和気優プロデュース店舗サイト <http://hyakushow.com/>

〒152-0004 東京都目黒区鷹番 2-21-4 農民カフェ／学芸大学店内

学校・教育関係者様各位

初めまして、和気優です。
私のプロフィールについては別紙をご覧ください。

和気は15年間、少年院や児童自立支援施設（旧教護院）をコンサートして参りました。
この活動はこれからも変わらず続けていくわけですが、今後は更に少年院などの更生施設だけでなく、一般の学校での公演を強く望んでいます。
現時点で被災地福島県相馬の中村第二中学校や沖縄の国頭中学校など5校で実現しております。

◎なぜ、学校ライブか？

1. 和気はコンサートを通じ、青少年少女たちに“生きる、”と言う、人間の根源におけるメッセージを叫びます。
“生きる、”は世代や境遇を越えて、普遍的なテーマであると言えます。
2. 自分を信じること、自分を愛することから始まる“自己、”を見つめる事の大切さを理解して欲しい。
自分を信じる→人を信じる。
自分を愛する→人を愛する。
つまり、自分を信じられない人間が、人を信じたり、愛したりするのは不可能だからです。
自分は、必要とされて、意味を持って生まれてきたことに気付いて欲しい。
3. 生（なま）の音楽にふれながら、音楽とは受けるだけではなくて、自らが感じ表現することにあると言う自己啓発につながる道を諭します。
4. あの2011年から被災地への地べたを這うようなバイクツアーで繋がった、こんなに打ちのめされても「生きる」を諦めない人々の人生を伝えたい。
5. 農業を通じて「生きる」の根幹である「食」の本質と営みを大ナツミックに伝えたい。

そのすべては少年院などの特別な境遇の青少年少女だけでなく、ごく一般の青少年少女、果ては世代に拘わらず、人類共通のテーマであると考えられるからです。

以上のことを踏まえて、
是非、一般学校のコンサート講演を実現すべく、ご協力頂きたく願う所存であります。

和気優